

「日本の伝統文化の未来」を明るくする

今年で3回目となる「万祭2019」には、古典芸能やお茶、伝統工芸品など、日本の伝統文化の特徴や技術が詰まっています。多くの人が、知ってはいるけど身近に感じることや触れる機会は少ないと思います、この大イベントを企画しました。予想を大幅に上回る1600名程のご来場がありました。心より御礼を申し上げます。



私 は中学時代から、大の欧米好きでした。NBAや洋楽などたくさん視聴しました。ロス五輪でのカール・ルイスの活躍で、外国への興味が強まる一方、日本に対しては何となく劣等感がありました。

上京して数年、憧れの先輩が作務衣を着ている姿を見て「カッコいい、自分も着たいな」と思いました。私も正月の挨拶時に着物を着ると「カッコいい」と好評。年に一度、初詣の際には着物を着ました。

ご縁があり、ブータン王国を訪れたとき、ブータンの民族衣装「ゴ」「キラ」が、日本の着物にそっくりなことに驚きました。皆、とても似合っていて「自国の民族衣装に誇りを持っているのがカッコいい」と思い、この瞬間から私の価値観が変わりました。数年後、茶道と出会ったことで、着物を週に1、2回着るようになりました。着物に関わると、様々なことがわかりました。着物業界は壊滅的に苦しいそうです。着る人が年々減り、ほとんど売れないので、京都だけではなく、全国的に廃業を考えるお店が後を絶ちません。また、お茶の道具

屋もしかり。茶道人口が減り、道具が売れず、後継ぎに困っている。何百年も培ってきた素晴らしい技術も、受け継ぐ人と市場がなければ絶えてしまうのです。

弊社では長らく、ノベルティ事業をおこなっておりますが、扱われる商品の多くは、価格で有利な中国製でした。その状況打破するためにも、2015年に日本製ノベルティ「これいい和」をスタート。伝統工芸品の職人さんから話を聞いたところ、1984年に5000億円だった生産額も、2013年には1000億円と、ピークの2割にまで落ち込んでいます。

こ のままでは、日本の素晴らしい伝統が絶えてしまう、という危機感から、我々は「若者のリーダー育成」に加え、「日本の伝統文化を護る」事業にも注力することを決めました。夏の屋形船には浴衣の男女が千人規模で集まり、ニュースに取り上げられました。着付けを教える着物塾を7年前に開始。今年の初詣には230名を超える若者が着物で参加、多くの方が自

分で着付けての参加です。波及していく中で、多くの方が着物や小物を購入し、着物業界では異例の好景気を生んでいます。

文化の日の「万祭2019」には、全国23都府県の伝統工芸品を出品、8人の職人さんも集結。京都の京扇子や西陣織のネクタイが飛ぶように売れ、白河ダルマ、有田焼、武州正藍染、伊勢木綿などの職人さんたちも「こんなに若い人に見ていただいたり、購入していただき驚きです」と中には涙ぐむ職人さんもありました。着物ショーでは、ミス・ワールド・ジャパン2019のファイナリスト6名が見事な振袖姿を披露。着付けは着物塾生が仕上げ、当日は着物の先生にも合格をいただきました。

若者は着物や伝統工芸品に興味を持ち、関わる職人さんは自分の仕事に一層の張り合いを感じられた、良い会になりました。今後、一層インバウンドが増える日本。日本独自の伝統文化は日本の大切な特徴であり武器でもあります。今後の伝統文化、伝統工芸産業を明るくできるよう、活動をさらに活性化させたいと思っています。

(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長 室館 勲
Murodate Isao

2003年株式会社キャリアコンサルティングを設立。2007年ブータン王国立マネジメント大学にて講演。全国社内木鶏経営者会 副会長。日台文化交流青少年スカラシップ 審査員。ミス・ワールド・ジャパン2019 審査員。著書に「夢を見て 夢を叶えて 夢になる」(致知出版社)、「まずは上司を勝たせない」(講談社)、「応援される人」になりなさい」(ワック)がある。